

《投稿規程》

1. 本誌の目的

公益社団法人 石川県理学療法士会（以下当会）の機関誌として、

- ① 理学療法および関連領域における研究発表
- ② 理学療法及び関連領域における症例報告および実践報告
- ③ 卒後継続教育の奨励
- ④ 石川県理学療法学会大会における優秀演題の論文文化以上の場を提供すること。

2. 記事の種類

- ① 原著論文：新規性および独創性があり、明確な結論を示した論文。または、編集委員会で研究論文としての掲載が適切と判断された論文。
- ② 症例研究：症例の臨床的問題や治療結果について科学的に研究を行い、考察を行った論文。または、症例の治療および経過などについて論理的に提示し、考察をおこなったもの。
- ③ その他：原著論文、症例研究に当てはまらない論文で、編集委員会において、総説、短報、実践報告、調査などの論文として掲載が適切と判断されたもの。なお、短報とは研究の速報や略報として簡潔に記載された短い研究論文。

3. 投稿資格

筆頭著者は原則として当会会員に限る。但し、学術局研究部の決定により、会員外の著者に原稿を依頼することができる。

4. 投稿原稿の条件

投稿原稿は、他誌へ発表、または投稿中の原稿でないこと。投稿規程に従って作成すること。また、投稿に際しては必ず共著者の同意を得ること。

5. 利益相反

利益相反の可能性のある事項については、タイトルページに記載すること。なお、利益相反に関しては日本理学療法士学会が定める「利益相反の開示に関する基準」を遵守すること。

6. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、当会に属するものとする。論文投稿時に石川県理学療法学会誌投稿承諾書も合わせて提出すること。

7. 研究倫理

ヘルシンキ宣言および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」などの医学研究に関する指針を遵守し、被験者・症例の了承を得たことを本文中に明記すること。また、研究にあたり所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会（準ずる機関を含む）の承認を得た場合には倫理審査委員会名および承認番号（または

承認年月日）を記載すること。さらに被験者・症例の個人情報保護のため、氏名生年月日など特定の個人を識別できるような記述をしないようにすること。また、所属施設において個人情報保護の規定がある場合は、それに従って原稿を作成すること。

8. 原稿の採択

原稿の採否、掲載順は編集委員会で決定する。査読の結果、加筆、削除および原稿の修正を求められることがある。修正する場合は、修正した論文と、何処を修正したのか明解に判断できるもの、査読意見に関するコメントを合わせて提出すること。

また、編集委員会の責任において、字句の訂正を加えることがある。

9. 校正

著者校正は原則として1回とし、誤字脱字を除く文章および図表の変更は原則として認めない。

《執筆規程》

1. 原稿の構成および表記

タイトルページ、本文、図表、図表の説明文などで構成する。タイトルページと本文・図表・図表の説明文はそれぞれ本誌の様式ファイルをホームページよりダウンロードして作成すること。

表記について、外国語名（地名、人名、その他）は、原則として原語を用い、略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。単位は国際単位系（SI単位）を用いる（長さ：m、質量：kg、時間：s、温度：℃、周波数：Hz、等）を使用すること。

2. タイトルページ

- 1) 投稿論文の記事の種類：原著論文、症例研究、その他（総説、短報、実践報告、調査等）の中から選択し、記載する。
- 2) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語・略称は用いない。なお、30字以内のランニングタイトル（簡略標題。標題を短くしたもので、標題よりもさらに主題に絞り込んだもの。標題が30字以内であれば同じでもよい）を記載する。
- 3) 著者名：著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。著者資格については統一規定（国際医学雑誌編集者委員会：生物医学雑誌への投稿のための統一規定（http://www.icmje.org/urm_main.html））を参照すること。なお、審査開始後の著者の変更は原則認めない。
- 4) 所属：筆頭著者および共著者の所属名を記載、責任著者のみ、所属施設の住所・電話番号・メールアドレスを記載する。

5) 謝辞 (必要であれば): 著者資格には該当しない研究への貢献者については謝辞に記載する。

6) 利益相反: 利益相反の有無について記載する。

3. 本文: 原著および症例研究のどちらかの様式ファイルを選択し記載する。

1) 表題: タイトルページと統一

2) 要旨: 300字程度の和文要旨をつけること。「目的」「方法」「結果」「結論」について項を分けて簡潔に記載する。また、原著論文 (研究論文)、短報以外の記事の種類の論文においては、著者の判断で項目名を変更してもよい。

3) キーワード: 3~5つとする。

4) 本文: 本文は原則以下の項目に沿って本文を構成すること。ただし、原著論文 (研究論文)、短報以外の記事の種類の論文においては、著者の判断で項目名を変更してもよい。

①はじめに (序論, 緒言)

研究の背景, 臨床的意義, 研究の目的, 取り扱っている主題の範囲, 先行研究との関連性などを記述する。

②対象および方法

用いた研究方法について第3者が追試できるように記述する。倫理的配慮として、被験者・症例の了承を得たことを明記すること。所属施設の倫理委員会 (準ずる機関を含む) の承認を得た場合には、倫理審査委員会名および承認番号 (または承認年月日) を記載する。

③結果 (成績)

研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。データは、検証、追試を行いやすいように図 (グラフ) よりも表にして数値で示す方が望ましい。

④考察 (分析)

結果の分析・評価, 研究の限界, 今後の課題, などを記述する。

⑤結論

研究で得られた結論を200~300字で簡潔に記述する。

5) 文献: 引用文献のみとする。

引用文献は本文の引用順に並べる。雑誌の場合は著者氏名, 論文題目, 雑誌名, 西暦年号, 巻, 頁 (最初~最終) の順に書き, 単行本の場合は著者氏名, 書名, 編集者名, 発行所名, 発行地, 西暦年号, 頁を記載する。文献名の省略は米国国立医学図書館 (http://www.nlm.nih.gov/bsd/uniform_requirements.html) に従う。引用文献の著者氏名が3名以上の場合は最初の2名を記載する。

[例]

1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程 — Ten Step Test を用いて—. 理学療法学. 2008; 35: 35-41.

2) Tompkins J, Bosch PR, et al.: Changes in Functional Walking Distance and Health-Related Quality of Life After Gastric Bypass Surgery. Phys Ther. 2008; 88: 928-935.

3) 信原克哉: 肩—その機能と臨床— (第3版). 医学書院, 東京, 2001, pp156-168.

4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp97-112.

5) 名郷直樹: EBMの現状と課題, エビデンスに基づく理学療法 活用と臨床思考過程の実際. 内山 靖 (編), 医歯薬出版, 東京, 2008, pp18-38.

6) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyoku/i-kenkyu/index.html>
厚生労働省 研究に関する指針について (参照 2020-01-07)

6) 図表: 図・写真・表: 図・表は本文に出てくる順に, それぞれ一連番号をつけ, 挿入位置は本文の右欄外に指示すること。図・表を転載する場合は投稿前に著者の責任で転載許可をとり, 投稿時に許可書を提出すること。図の番号およびキャプションは図の場合は図の下に, 表の場合は表の上につけること。

4. その他

1) 必要がない限り表には縦線は使用しないこと。

2) 本文中には行番号および頁番号を必ず記載すること。

5. 原稿送付先および連絡先

〒920-0942

石川県金沢市小立野5丁目11-80

石川県理学療法士会 学術局研究部

Tel: 076-265-2615

E-mail: journal@ishikawa-pt.com

(2021年12月23日改訂)